

別添 4－2

施設運営・身体障害に関して

分担研究報告書

令和 5 年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者政策総合研究事業 (身体・知的等障害分野))
障害者支援施設や共同生活援助事業所、居宅支援における高齢障害者の看取り・終末期の
支援を行うための研究 (23GC1008)

分担研究報告書

施設運営・身体障害に関して

分担研究者 本名 靖 (社会福祉法人本庄ひまわり福祉会)

研究要旨

障害者支援施設等へのアンケート調査により、看取りの実態を明らかにし、今後の施設運営と課題について検討した。その際、障害種別による違いも想定されるため、知的障害、身体障害、精神障害別に分析を行い、実態を把握した。

A. 概要と目的

本分担研究では、看取りに関した組織と運営に関してまとめることとする。特に身体障害者施設の看取りの現状と看取りを支える組織体制について、アンケートとインタビュー調査を実施した。対象事業所は、全国の障害者支援施設及びグループホームである。

B. 方法

①アンケート調査は以下の項目で実施した。

1. 事業所状況 (24 項目)、2. 入居者状況 (2023 年 10 月 1 日時点 11 項目)、3. 施設における看取りの取り組み、本人・家族などの意思確認状 (22 項目)

アンケート対象は全国の障害者支援施設と共同生活援助 (グループホーム) である¹。

ヒアリング調査はアンケート結果を精査し、19 施設を抽出して実施した(死亡場所は病院だが、看取りのケアを一部でも施設で行ったところ)。

C. 研究結果

1. 対象施設・事業所の概要

2023 (令和 5) 年度版障害者白書では表 1 の通り、障害者の総数は一千万人を超えている。

精神障害者は 614 万 8 千人で、3 障害の中では最も人数が多くなっている。精神障害者の施設とは入院という意味である。同様に在宅とは通院している人数を示している。身体障害児者の施設入居者は 7 万 3 千人であり、全体の 1.6%にしか過ぎない。一方、知的障害児者は 13 万 2 千人 (12.1%) に達している。

¹ 対象施設、回収数に関しては統括研究報告を参照のこと

今回のアンケート調査では表 2 の通り、グループホーム 1,012 施設、支援施設 528 施設、無回答 1 施設で 1,541 施設を対象とした。実際には記載漏れや選択肢が無回答の 20 施設を対象から除外した。

表 3 の通り、障害者支援施設では精神障害者を対象とした支援施設の数 10 施設 (1.9%) と少ないことがわかる。グループホームでは、身体障害者のグループホームが 36 施設 (3.6%) と少ないこともわかる。表 3 では無回答の 1 施設を除いた。

表 4 は開設年階層と施設種別のクロス表である。障害者支援施設が開設したピークは 1980 年代から 1999 年までの間である。一方、グループホームは 2000 年以降急激に増えている。身体障害者福祉法が 1949 年、精神薄弱者福祉法（現：知的障害者福祉法）が 1960 年に制定されている。1950 年代の支援施設の障害種別を調べると、11 施設のうち 10 施設が知的障害者施設であることがわかった。児童福祉法が 1947 年に制定され、知的障害を持つ児童のための施設が開設されたため、1950 年代の 10 施設が知的障害関連施設であったと思われる。身体障害関係の施設の数 1970 年代まで一桁の数で推移していた。

2. 看取りの実施に関して

看取りケアを実施しているかどうかをたずねた結果が表 5 である。無回答をどのように判断するのか難しいが、実施していないと判断することが妥当だと思われる。表 5、図 2 の通り、回答した 1,541 施設・事業所のうち、僅か 43 施設 (2.8%) しか看取りケアを実施していないことがわかる。

(1) 看取りケアの実施と施設種別

看取りケアを「実施している」と回答した 43 施設の内、1 人に対して実施した施設・事業所が 20 施設で約半数を占めている。また、障害者支援施設はグループホームの 3 倍弱の看取りケアを実施していることがわかる。

(2) 看取りケアの提供と主な障害種別

表 6 が看取りケアの提供と主な障害種別のクロス表である。全体の提供率が 43 施設 (2.8%) である。大きく上回っているのは、身体障害の施設が 12 施設 (6.5%) となっている。

知的障害の施設は全体の平均値と同数の % を示していた。

主な障害種別では、身体障害の看取り割合が全体を 3.7 ポイント上回っていた。その要因は、入所者の平均年齢が身体障害の施設は高く、看取りを必要としている状況があるのではないのかと考えられたため、平均年齢を比較してみた。

表 7 が年齢階層と主な障害種別をクロス集計した表である。合計の割合を 2 ポイント以上上回った箇所に印を付けると、精神障害は 30 代・40 代が全体の割合を上回り、身体障害は 50 代・60 代で全体の割合を上回っていた。身体障害の施設入居者の高齢化が進んでいることがわかる。

表 8 の通り、身体障害の施設は 1970 年代から割合が増えている。知的障害の施設は 1950 年代から一貫して一定の割合で増えているが、2000 年以降の急増はグループホームの設立がその原因であることはすでに述べている。

知的障害に関しては 1950 年代から施設が作られ、高齢の入居者が一定程度いるはずだが、年齢階層では 60 代以上の割合が全

体の割合よりも低くなっている。すでに施設内で看取りが行われていた可能性が高いと推測される。

看取りを実際に行った施設の開設年階層と障害種別、看取りの人数をクロス集計したものが表 9 である。4 人以上看取りを実施した施設は知的障害の施設で 1950 年代に設立された施設が 6 名、1960 年代に設立された施設が 5 名の看取りを実施している。

一方、身体障害の施設は 1970 年代に設立された施設が 3 施設で看取りを実施していることがわかった。

(3) 看取りの体制

表 10 が看取りの体制（看取りの方針、マニュアルの有無、看取りの研修の有無）と実際に看取りを提供しているかどうかを集計したものである。実際に看取りを提供していなくても、看取りの方針やマニュアルがあり、看取りの研修等を実施している施設の多いことがわかる。また、実際に看取りを提供していても看取りの方針やマニュアルが無い、準備中の施設も数多くある。看取りの研修に関しても同様に実施していない施設が存在している。

表 11 は主な障害と看取りの体制を集計したものである。看取りの方針、マニュアルがあると回答した割合が高いのは身体障害を対象とした施設である。研修に関しては、全体で 49 施設（3.6%）と研修までは至っていないことか明らかになった。

D. 考察

現状では看取りを実際に行った施設は 43 施設で、調査対象施設の僅か 2.8%でしかなかった。しかし、施設入居者の平均年齢が上

がっており、今後看取りをしなければならない状況が生まれつつあることは事実である。

主に知的障害を対象とする施設では 60 代の入居者を抱える施設が急激に減っている。50 代でなんらかの課題があり、60 代を抱える施設数が減っているものと考えられる。50 代で看取り考えなければならない状況が生まれているものと推定される。

主に身体障害を対象とする施設は 50 代、60 代の入居者を抱える施設が多かった。入居者の高齢化が懸念される。身体障害を対象とする施設では、身体的な支援の量が増大する中で、看取りもしなければならない状況にある。

看取りの体制に関して、現状では看取りを提供していない施設でも、看取りの方針やマニュアルの作成、看取り研修等を行っている施設は一定の割合であることがわかった。看取りケアの必要性を感じて、体制の整備に取り組んでいるが、実際にはまだ看取りケアを提供しているわけではない。また、実際に看取りケアを実施している施設でも、看取りの方針は作成しているが、マニュアルの作成、看取り研修等には取り組めていない現状が確認された。施設の個別性はあるが、標準となるマニュアルと看取り研修のプログラムを作成する必要があると考えられる。

主な障害種別で看取りの体制を整えているのは、主に身体障害を対象とした施設である。入居者の高齢化に伴い、看取りの体制を整備する必要性があると感じているものと考えられる。

E. まとめ

看取りケアを実施している施設は 43 施設とまだ少ないが、看取りの体制整えようとしている施設は多い。その理由は入居者の高齢化であり、多くの施設が高齢化対策の一環として、看取りケアの必要性を感じているからだと推測される。

その意味でも、標準的なマニュアルの作成と看取りケア研修の標準プログラムが必要だと考えられる。

F. 図表

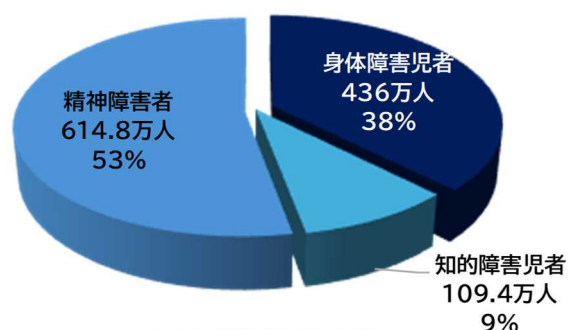


図1 障害児者の数

表1 障害児者の数

単位:千人

		在宅	施設	総数
身体障害児者	人数	4,287	73	4,360
	%	98%	2%	100%
知的障害児者	人数	962	132	1,094
	%	88%	12%	100%
精神障害者	人数	5,861	287	6,148
	%	95%	5%	100%
合計	人数	11,110	492	11,602
	%	96%	4%	100%

表2 調査対象施設の種別

	数	%
障害者支援施設	528	34.3
グループホーム	1012	65.7
合計	1540	99.9
無回答	1	0.1
合計	1541	100.0

表3 施設種別と主な障害種別のクロス表

	知的障害	身体障害	精神障害	その他	無回答	合計
障害者支援施設	357(67.7)	150(28.5)	10(1.9)	10(1.9)	1(0.2)	528(100)
グループホーム	614(60.6)	36(3.6)	317(31.3)	44(4.3)	1(0.2)	1012(100)
合計	971(63.1)	186(12.1)	327(21.2)	54(3.5)	2(0.1)	1540(100)

表4 開設年階層と施設種別のクロス表

	障害者支援施設	グループホーム	無回答	合計
1950-1959年	11	1	0	12
1960-1969年	28	1	0	29
1970-1979年	96	4	0	100
1980-1989年	135	13	0	148
1990-1999年	111	58	0	169
2000-2009年	83	250	0	333
2010-2023年	60	677	0	737
無回答	4	8	1	13
	528	1012	1	1541

表5 看取りケアの実施と施設種別

看取りケアを提供した人数	障害者支援施設	グループホーム	合計
1人	14	6	20
2人	8	3	11
3人	3	2	5
4人	1	0	1
5人	2	0	2
6人	3	0	3
12人	1	0	1
合計	32	11	43

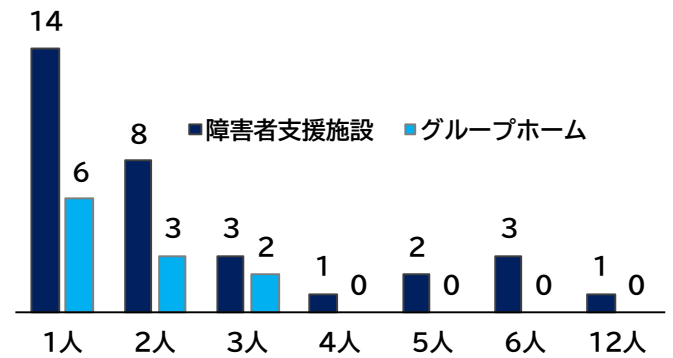


図2 看取りケアの実施と施設種別

表6 看取りケアの提供と主な障害種別

看取りケアの提供	知的障害	身体障害	精神障害	その他	無回答	合計
提供していない	943(97.0)	174(93.5)	325(99.3)	54(100)	2(100)	1498(97.2)
提供している	29(3.0)	12(6.5)	2(0.7)	0	0	43(2.8)
合計	972(100)	186(100)	327(100)	54(100)	2(100)	1541(100)

表7 年代と障害種別

障害種別 年代	知的障害	身体障害	精神障害	その他	合計
20代	24(2.7)	1(0.6)	7(2.4)	1(2.5)	33(2.4)
30代	118(13.4)	7(4.3)	43(14.6)	3(7.5)	171(12.4)
40代	331(37.6)	19(11.7)	119(40.5)	21(52.5)	490(35.6)
50代	340(38.6)	76(46.9)	101(34.4)	11(27.5)	528(38.3)
60代	61(6.9)	57(35.2)	24(8.2)	4(10.0)	146(10.6)
70歳以上	7(0.8)	2(1.2)	0	0	9(0.7)
合計	881(100)	162(100)	294(100)	40(100)	1377(100)

表8 障害種別と開設年階層

	1950-1959年	1960-1969年	1970-1979年	1980-1989年	1990-1999年	2000-2009年	2010-2023年	合計
知的障害	10(1.0)	25(2.6)	68(7.1)	98(10.2)	119(12.4)	208(21.6)	435(45.2)	963(100)
身体障害	2(1.1)	3(1.6)	29(15.7)	46(24.9)	29(15.7)	32(17.3)	44(23.8)	185(100)
精神障害	0	0	1(0.3)	3(0.9)	20(6.2)	81(25.0)	219(67.6)	324(100)
その他	0	1(1.9)	1(1.9)	1(1.9)	1(1.9)	12(22.2)	38(70.4)	54(100)
合計	12(0.8)	29(1.9)	99(6.5)	148(9.7)	169(11.1)	333(21.8)	736(48.2)	1526(100)

表9 看取りケアを提供した人数

	開設年階層	1人	2人	3人	4人	5人	6人	12人	合計
知的障害	1950-1959年	0	0	0	0	0	1	0	1
	1960-1969年	2	1	0	0	1	0	0	4
	1970-1979年	1	0	0	0	0	0	1	2
	1980-1989年	1	3	0	1	0	0	0	5
	1990-1999年	4	2	1	0	0	0	0	7
	2000-2009年	1	1	2	0	1	0	0	5
	2010-2023年	2	2	0	0	0	1	0	5
合計		11	9	3	1	2	2	1	29
身体障害	1970-1979年	1	1	1			0		3
	1980-1989年	3	1	1			0		5
	1990-1999年	1	0	0			0		1
	2000-2009年	1	0	0			0		1
	2010-2023年	1	0	0			1		2
合計		7	2	2			1		12

表10 看取りの体制

看取りの体制	看取りの方針 n=1430			マニュアル n=1429			研修 n=1425		
	なし	準備中	あり	なし	準備中	あり	なし	準備中	あり
提供していない	1262 (91.0)	79 (5.7)	46 (3.3)	1299 (93.7)	65 (4.7)	23 (1.7)	1285 (92.9)	59 (4.3)	39 (2.8)
提供している	17 (39.5)	5 (11.6)	21 (48.8)	23 (54.8)	4 (9.5)	15 (35.7)	22 (52.4)	7 (16.7)	13 (31.0)
合計	1279 (92.5)	84 (4.8)	67 (4.7)	1322 (92.5)	69 (4.8)	38 (2.7)	1307 (91.7)	66 (4.6)	52 (3.6)

表11 主な障害と看取り体制

看取りの体制 主な障害	看取りの方針 n=1382			マニュアル n=1382			研修 n=1379		
	なし	準備中	あり	なし	準備中	あり	なし	準備中	あり
知的障害	812 (89.1)	60 (6.6)	39 (4.3)	842 (92.2)	51 (5.6)	20 (2.2)	832 (91.3)	46 (5.0)	33 (3.6)
身体障害	144 (85.7)	7 (4.2)	17 (10.1)	150 (89.8)	4 (2.4)	13 (7.8)	146 (88.0)	7 (4.2)	13 (7.8)
精神障害	281 (92.7)	13 (4.3)	9 (3.0)	288 (95.4)	11 (3.6)	3 (1.0)	288 (95.4)	11 (3.6)	3 (1.0)
合計	1237 (89.5)	80 (5.8)	65 (4.7)	1280 (92.6)	66 (4.8)	36 (2.6)	1266 (91.8)	64 (4.6)	49 (3.6)